

令和3年度「布教教化大会」

「寺院におけるSDGsの取り組み—実践報告と実現への提案」

開催日時：令和3年11月4日 13:30~15:35

開催方法：オンライン開催（Zoomミーティング）

教化主事

これより、「寺院におけるSDGsの取り組み—実践報告と実現への提案」と題して、令和3年度「布教教化大会」を開会いたします。

はじめに岩手県宗務所所長からご挨拶をいただきます。

所長

一言ご挨拶申し上げます。去る6月に遷化されました前所長・佐々木端瑛老師の後任となりました釜石市常楽寺・藤原育夫でございます。よろしくをお願いいたします。

本日の布教教化大会が開催されるに当たり、県内寺院の諸老師におかれましては、ご参加いただきますことに心より感謝申し上げます。皆さま、すでにご承知のとおり、我が宗門はSDGsの取り組みを行っております。誰一人取り残されない社会の実現、菩薩の誓願を生きる信仰実践を主眼とし、多くの人々と活動を共にしております。まさに四摂法の教えを実践することが、このSDGsの趣旨に同じと考えます。苦しんでいる多くの人々の先頭に立って社会に貢献する、それが我が宗門の教えであり、我々僧侶の役目だと思っております。布教活動は宗門の根幹を成す実践修行です。一仏両祖のみ教えのもとに、宗門人として、今伝えたいことを是非お話しく下さい。

また、リモート視聴参加する皆様には、この布教教化大会を通じて、共に研鑽していただき、ご自身の布教活動に取り組んでいただきたいと思います。それでは有意義な大会が成功することを祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

教化主事

ここからは、布教教化員の部会長・10教区正福寺ご住職・須藤寛人師より、本大会の主旨の説明と進行をお願いいたします。

部会長：須藤寛人師（正福寺）

皆さん、本日は、お集まりいただきありがとうございます。コロナ禍のためにZoomを使用しているオンライン布教教化大会となりましたが、このように開催することが叶い、大変喜ばしく存じます。

本日これからの進行ですが、最初に部会長である私、須藤がSDGsの概要と10教区における取り組みを若干お話しした後に、1教区・2教区と順番に発表をお願いしたいと思います。

まず最初に、SDGsについての概要と歴史、あるいは宗門との関わり等についてお話しさせていただきます。

〈SDGsの概要と歴史〉

SDGsは、どのメディアでも最近では毎日のように取り上げられています。日本全体で取り組むべき課題として各マスコミ等も捉えているようです。SDGsという言葉自体は随処で耳にするようになったと思います。SDGs自体は2015年から2030年までに、国際的に取り組むべき課題として国連によって示されました。歴史的に見ますと、1945年・第二次世界大戦以降の国際協力の一連の流れの中にあると捉えることができようかと思えます。

1970年代、欧米の社会学・統計学の研究では、その当時のまま生産活動・消費活動を継続すると、2040年~2050年を境に世界の発展は下降線をたどるのではないかという衝撃的な研究が発表され

ました。その原因として挙げられるのが人口問題であったり、食糧問題・環境問題、あるいは資源の枯渇。そのために人間社会が墜落し衰退し、そして最終的には人類・人間社会は滅亡に近い状態になるであろうというショッキングな研究が次々と出されました。

今般、日本の国籍はありませんけれども日本人としてノーベル物理学賞を受賞した眞鍋淑郎氏の研究の中心でもあります、空気と太陽が結合して連動して動いている、というモデルの論文も1969年に発表され、1970年代以降の環境問題の中心的な理論となりました。その流れを受けて国連は2000年から2015年にかけて世界全体で取り組むべき運動として、MDGsというミレニアム開発目標というそういう目標を掲げました。

このMDGs、SDGsに先立つものですが、このMDGsは世界の貧困率を低下させあるいは幼児の死亡率を削減させました。エイズやマラリアの罹患率、病気になる率、そういうものもMDGsの運動によって低下しました。MDGsが取り組んだのが主に発展途上国でありました。日本もMDGsに取り組んできました。

しかし、SDGsの場合には日本全体で運動を盛り上げていますが、MDGsの場合には海外青年協力隊といった一部の人の活動が中心でした。日本も国として支援金を出しはしましたが、国全体で気運を高めて取り組むというところまでは到りませんでした。

MDGsは実際に多くの成果を上げましたが、就中、先進国の中にも貧困や差別・不平等が根強く残っていることが明らかに見えてきました。そしてそういう問題が、実は環境問題や生活・生産活動といった諸相につながる包括的で構造的な問題であるということから、2015年から2030年にかけて達成すべき運動として、また全世界の目標であり国連加盟国のすべてが積極的に取り組むべき課題として、SDGsが提唱されるに至ったということです。

SDGsに先立つMDGsの目標設定は、主に専門

家一國連の職員や研究者—によって行われました。それに対し、SDGsの目標は、世界中のさまざまな階層・階級・人種・性別といった様々な人たちによって設定されました。

SDGsは17の目標と169のターゲット、そして232の指標から成っています。17の目標の1から6は人々あるいは人々の健康や人権に関わるものです。7から12は社会経済生産活動などに関わるものです。ちょうど今週イギリスでG20とCOP26が開催されました。13から15は、地球環境に関わるものです。16は平和に関して、17は国と国との連携・社会や企業の連携、個人と個人の連携といったものがすべて一体となることの必要性を謳っています。

ここまで申し上げますと、この17の目標というのは、実は曹洞宗が掲げる「人権・平和・環境」と重なる部分が多く、曹洞宗も大きく関わるべきであり、発信すべきであるということが分かってまいります。

一部には、ヨーロッパの勢力が自分たちを守るためにこれらの国際協力を行っているのではないかという批判もあります。先ほど1970年代の研究、ショッキングな研究が出されたとおりましたとおり「人類・人間社会を持続させるためには、世界全体でSDGsに取り組まねばならない」というふうの世界全体がSDGsへ舵を切りました。そこで、それをどのように理解し、どのように取り組んでいくかが日本のみならず曹洞宗の課題でもあります。実際にSDGsの目標の多くはアジア的理想に合致する部分も多く、大乘仏教の柱でもある「菩薩行」—先ほど所長さんが仰られたとおり「菩薩行」と大変関わるものです。この菩薩行との関わりの中で実践していくということから、本日の布教教化大会のテーマが設定されたとお考えいただければと思います。

ここまで、SDGsがどのような経緯で設定され

てきたか、そしてそれが現代の世界にどういう意味を持っているかを申し上げて参りました。

ここからは、教区毎の取り組みについて、まず私の所属する10教区で、どのような意見が出され、実際に如何なる試みが行われているか、若干ですが紹介したいと思います。

〈10教区の取り組み〉

以前、「教区人権学習」で、障がい者差別解消法に関連して勉強会を行いました。そこでは「すべての人に開かれた寺院を」という形で、差別なく身体の障がいに関係なく寺院を訪れていただきたいというテーマで、みんなで勉強を行いました。

10教区は釜石・遠野そして大槌町で構成され、その半数ほどの寺院が三陸沿岸に面して所在しているのです。東日本大震災で不幸にも被災した寺院がありました。再建を果たした寺院では、車椅子での参詣ができるようにスロープが設置され、段差の解消が図られました。また、津波による被災を考慮して、本堂が建物の2階に設けられた寺院もあります。そういう寺院では、車椅子でも2階の本堂に赴いて、ご本尊さまに手を合わせていただけるようにという思いからエレベータを設置されました。また、寺院に車椅子あるいは杖を常備し、参拝者が利用できるようにしている寺院もあります。

一方で、古い造りの寺院の場合、本堂の床面の高さは地面から高く、向拝の階段に、折りたたみ式のスロープ等を設けた場合には10m以上の長さが必要となってしまい、現実的ではないという意見もありました。

また、震災後の再建を果たした寺院では、照明のLED化が進められて省電力化が図られています。造りの古いご寺院でも同様に照明のLED化が進んでいます。

資源の無駄使いを減らすという意味で、フードロスの削減も挙げられます。忌明けのお齋でのお膳を、コロナ禍で会食がなかったことも関連して、

通常には仏様のお膳・僧侶のお膳の2膳を準備していたところを、僧侶のお膳を無くして、仏様のお膳一膳だけにするという形でフードロスを減らす実践を行っている寺院もあります。あるいは供物で上がったお菓子を児童館などにお配りするという事例もあります。

布教教化という意味において、お寺からの発信・情報提供も布教であり有意義な実践であるという観点から、釜石市で実際に行われていたり、或いは提案されている事例を紹介したいと思えます。

環境あるいはエネルギーに関してですが、岩手県の発電は水力が中心で、ほかには、地熱発電・風力発電・ソーラー発電などもあります。岩手県内で火力発電所というのは釜石市の日本製鉄内の1カ所だけで、岩手県は自然エネルギー・再生エネルギーという観点からすると大変優等生の県であるとされています。製鉄という点に関しては、鉄は山から掘り出した鉄鉱石を溶かして鉄を取り出し、残ったものにはリンが含まれているので肥料として使うという大変自然に優しいものです。鉄を溶かすための燃料は今は石炭が中心ですが、二酸化炭素を出さないアンモニアガスなどへの変更が検討されています。

釜石や大槌ではウニが取れます。ウニの殻というのは細かく砕いて水槽のろ過材として使われています。また、ワカメ、コンブなどの海藻類は地上の植物以上に二酸化炭素を吸収すると知られています。

また、私のお寺の所在する甲子という地域は「甲子柿」でよく知られていると思いますが、その甲子柿の「柿の葉」で石鹼や洗剤を作るといふ、無駄を無くす活動というものを私が提案して、現在、釜石高校で研究中です。このような様々な取り組みの紹介や発信も、布教の大事な実践の一部であると考えています。

SDGsの経緯と意義、それが如何に曹洞宗と関

わっているのかを中心に概説を行い、10教区での取り組みと、布教として発信すべきようなテーマ・題材について述べさせていただきました。以上、私からの発表とさせていただきます。

部会長

続きまして1教区からの発表をお願いいたします。

第1教区：高田正太師（清雲院）

第1教区、滝沢市清雲院の高田正太です。よろしくをお願いいたします。

第1教区の発表をいたします。SDGsの取り組みとして、私が初めに思いつきましたのは、お葬式や年忌供養の際に供えられる果物やお菓子といったお供え物や引き物などの、供養後の扱いや対処です。他の各寺院における対応状況と方法に関して、教区の若手宗侶を中心にうかがいました。

様々な答えがありました。例えば、境内の掃除をしていただいている人達に配る、お寺の行事のお手伝いの方々に配る、檀家さんの集まりの時に配る、地域の集まりの時に配る、保育園のあるお寺では保育園の先生たちに配る、といった回答のほか、地域のフードバンク・こども食堂に寄付をしたり、バザーに寄付をしたり、老人施設やグループホームに寄付をする、また地域の社会福祉協議会で—そこでは一人親世帯を対象にしたフードパントリーをやっていて、これは無償で食料を配るというものだそうなんです—そういう活動に寄付をしたりしているという回答をいただきました。

次に「それ以外にSDGsを意識して取り組んでいることはありますか?」と尋ねましたが、一転して特にこれといった答えを聞くことはできませんでした。

他に、現在はまだ実際に取り組んではいないけれども、検討している案件がいくつか寄せられました。

例えば、お盆やお彼岸にお墓に供えられる大量

のお花についてです。季節にもよりますが、持って数日で、結局は大量のゴミになってしまうのは非常に悩ましい、ということ。

それから、やはり同じような理由で塔婆も気になります。

以前はご法事がありましたけれども、コロナ禍になってご法事が営まれなくなり、代わりにお弁当が配られるようになり、やはりその都度、仏さまの分と和尚さんの分と2つ、お葬式でも年忌供養でもいただくことになって、お檀家さんの多いお寺では土日など供養の多い日はもうどうしようもなくたくさんのお弁当を貰うことになる。これは非常に気になるというお話でした。

尤も、気にはなるのだけれども、そうした行為が長年の慣習として定着しているし、果物にしてもお菓子にしてもお花にしても仕出しにしても、それを商いとし生活をしてる人もいるわけだから、お供え等を止めるということもできない、という意見をいただきました。

次に「それではこれから寺院がSDGsに取り組むとしたら何ができると思うか?」というテーマで皆さんに聞きました。ところが、これに関してもなかなか難しく、明快な答えはなくて。答えはないんですけれども意見はいただきました。

1つ目は、SDGsは地球全体世界に目を向けている、寺院としては檀家さんや地域に目を向けなくてはいけないのではないかという意見。次に、わざわざお金をかけてやることではないとか、社会福祉にしても自然環境保護にしても、そういうことをやっている団体に寄付をするということも考え、意見としては出ましたけれども、そういうことに対して檀家さんの中にも面白く思わない人も出てくるのではないかという意見も出ました。

それからもうひとつ、禅宗の禅とSDGsは相性が悪いという意見もありました。SDGsは、人が生きる環境を整えてみんなが幸せになろうというものであって、禅は体と心を整えて幸せになろうと

いうもので、ここで整えるという言葉が適切かどうかはちょっと措いておきまして、また身体と心を整えるために禅が求める環境というものはありませんけれども、それはSDGsが目標としている環境と大きく違うという意見もありました。

ですが、菩薩行としてSDGsに取り組むという、そういう考え方で進めていこうではないかということになりまして、すべての命は尊いものであって大切にしなければならないという、そのあたりから何か考えることできないか、という風に意見がまとまりまして、先程の意見も併せて地域の中でお金をかけずにできることは何かということを考えてところ、モノを大切に使う、無駄にしない、使い捨てをやめる、ということが一番取り組みやすいのではないかということになり、さらに大切なことは、寺院だけでやろう和尚さん一人でやろうとせずに、檀家さんと一緒にやるということが大切ではないか、ということになりました。

現代は使い捨ての時代であります。ほんの少し昔を思い出すと、昔の人は非常に物を大切にしました。簡単に捨てることはしませんでした。おそらく使い捨ての時代というのはそう長くは続かないのではないかと思います。ですからもう使い捨ての生活をやめてしましまして、私たち今は使い捨てに心も体も慣れてしまっている部分もありますけれども、そういう生活をやめましょうという。

そうすればそれがお金の節約にもなるし、それが地球のためにもなるのではないかということ、ぜひ檀家さんに呼びかけて、それからお寺と檀家さんとみんなで、そういうことを進めていければ一番いいのではないかというような意見に最終的にはまとまりました。

第1教区としては以上です。

部会長

ありがとうございました。では、引き続きまして第2教区からお願いいたします。

第2教区：佐々木瑞岳師（桂林寺）

第2教区では今大会の発表に当たり教区長をはじめ役員5名義で意見を出し合いました。どの寺院でも食品ロスゴミを出さないリサイクルなどの取り組みをしていますが、改めてSDGsを前提に始めたというよりは以前から、人権平和環境等の人のために社会のためにと心がけておりました。そして昨今曹洞宗をはじめ。企業やメディアでSDGsの推進により、一層意識が高まったのだと思います。

今回は、私、桂林寺にて行っている食品環境に関する4点について報告したいと思います。一つは食品ロスに関することです。多くの寺院でも行っていることですがフードバンクへの寄付です。お葬式や年会供養の際のお供物などを寄付しております。寄付の条件に賞味期限が1カ月以上で明記されているものとあるので日頃より賞味期限の管理を行い捨てることなく寄付するようにしております。また墓前やお檀家さんより頂いた調理されている寄付できない食品につきましては当日食べきれないものは冷凍して後日食べるようにしております。お墓へのお供えは参列者の人数のみにしてもらい。供養の後にその場にてみんなで食べるようにしてもらっております。これにつきましてはかなり浸透してきて捨てたりお墓に置いていく人が減りお墓もきれいになりました。またコロナ過以前ではお通夜の際に地域の奥様が手作りで食事を振る舞う習慣があるのですが、その時に足りないよりは多く作ろうという風潮があり、かなりの残飯が出ておりました。実際お通夜から葬儀会食の一例を行い4日間ほどで米袋に2つの残飯を目の当たりにしてからは少ないくらいで十分ではないか残飯やゴミを出さないようにしようと呼びかけ減らすことができました。

2つ目はリサイクルです。これも多くの家庭寺院で行われていると思いますがダンボール本紙類

缶など分別してリサイクルします。桂林寺では必ず町内の福祉作業所へ持って行き運営資金へも役立ててもらっております。

3つ目は山の管理です。お寺の裏山の伐採をしています。毎年10本ほどですが、老木を伐採して新しい元気な木を育てています。下草も年に一度ですが刈り込み木が混み合わないようしております。切った木は2年ほど自然乾燥させて薪として使います。冬場の灯油や電気の使用量をかなり減らすことができました。当初は近所の方に来てもらっていましたが私も教わりながらチェーンソーで枝を切ったり倒れた木を細かくしたりできるようになりました。今後は立木を倒すところまでいきたいなと思っております。

4つ目は休耕田の利用です。現在農業をする方の高齢化や生態系の変化により鹿などの動物被害により耕すのをやめて荒れている田畑が多くあります。その休んでいる田んぼをお借りしてコメ作りをしています。自分自身が世話をすることにより低農薬に心がけ環境や気候の変化にも敏感になりました。またとれたお米の一部はフードバンクへ寄付しております。

以上4点の報告ですが私自身2年前の布教教化大会のSDGsに関する講演を聞いて、無駄なものを買わないようにしたりごみを出さないようにしたり環境にやさしいものを選んだりまた新聞や雑誌にSDGsの記事が載っていれば気にして読むようになりさらに意識して生活するようになりました。知ってるのと知らないのでは大きな違いがあることを実感しました。私自身の経験を踏まえ多くの方に知ってもらうことが大切なのではないかと思えます。

今後檀家さんとの話の中でも取り入れながら特に子どもたちに知ってもらうよう心がけていきたいなと思っております。以上です。

部会長

ありがとうございました。では、次に3教区さ

んお願いしたいと思います。

第3教区：佐々木綱晋師（仁昌寺）

第3教区仁昌寺の佐々木綱晋です。よろしくお願いたします。

第3教区では先日、9月29日にコロナもだいぶ収まってきたということで、荒屋新町の大聖寺様にて両祖忌の法要が営まれましたが、その際に教区内のご寺院の皆さんがお集まりになるということで、少々、アンケートを調査をさせていただきました。

ご住職様はもちろん、副住職の皆様にもアンケートをお配りしたところ、ほとんど回答を頂くことができました。それを集計してまとめましたものを資料といたしました。その資料をお見せしながら、お話をさせていただきたいと思えます。

SDGsに関するアンケート調査ということで、先ずSDGs自体をまだご理解いただけていない方、また、あまりご存じない方もいらっしゃるのではないかと思ひ、本当に基本的なことからアンケート調査をさせていただきました。

最初に「あなたはSDGsについてどの程度知っていますか？」と尋ねました。無記名にて、複数回答を可としてのアンケートです。次のような結果になっております。「SDGsという言葉聞いたことがある：38パーセント」、「ロゴ・アイコンを見たことがある：21パーセント」、「17の目標があることを知っている：10パーセント」、「169のターゲットがあることを知ってい：4パーセント」、「達成年度あること知っている：」とあって、最後の「全く知らない・初めて聞いたという方：14パーセント」もいらっしゃいました。

これですね、一応、半数以上の方は、まず何かしら耳にしたことがあるということで、見たことがある聞いたことあるということで、59パーセントの約60パーセントの方はご存知ということであ

りました。まずまずだとは思ったんですが、逆にまったく知らない方も14パーセントもいらっしゃったということでもあります。

次に、さらに踏み込んで曹洞宗のSDGsについて知っていますか、知っている場合はどのようにして知りましたかということで、ご覧のとおり「宗務所・宗報・ホームページ・インターネット」とさまざまです。これも最後の「知らない・今回初めて知った」という方も18パーセントいらっしゃいました。これはまずSDGsの取組を曹洞宗が行っていることを知ってるかどうかということ、SDGsを知ってる方でも、宗門の取組みについては、知らないとかあまり聞いたことないという方もいらっしゃったかなと思います。

次が、この「SDGsのロゴマーク」で「達成すべき17の目標があります」ということで、この中で「何に関心がありますか?」ということで関心のあるものをいくつか挙げていただきました。これらのアイコンの中で、一番関心があるっていうのは「平和と公正」というのが一番票が多かったですね。あとは「気候変動」と「飢餓」等が続いているようです。皆さんの関心事は、人それぞれでしょうから、いろいろひと通りご関心があるかなということもありましたけども関心がないという方も4件ございました。

次は「SDGsを意識して何らかの活動に取り組んでいますか?」ということで、「個人として取り組んでいる」という方が13パーセント、「寺・護持会として取り組んでいる」という方は残念ながらいらっしゃいませんでした。「今後、取り組みたいと思っている」という方が67パーセント。「取り組む予定はない」という方は20パーセントいらっしゃいました。この中で「『取り組んでいる』と答えられた方は、どのようなことを取り組んでいますか?」ということで具体的な内容を書いていただきました。その中には、先ほどお話は出ていますけれども、「食品の余剰分はフードバ

ンクに寄付している」「余った果物等は動物園に寄付している」「コロナ過で葬儀のお膳は仏様のお膳だけいただき住職のお膳は辞退している」「車いすの檀家さんも来ていただくため簡易スロープを導入した」などがございました。

次に「『取り組む予定はない』と答えた方は、その理由は何ですか?」ということを一応お聞きし、質問の答えとしては「SDGsに関心がない」「何をしたいのかわからない」「取り組むための資金的余裕がない」と「時間がない」というような回答がありました。

最後に「曹洞宗が行うSDGsに達成に向けた施策について、あなたが特に必要だったものは何ですか?」ということでお聞きしましたら、「SDGsに関する情報の発信」「セミナー・フォーラム等、学ぶ場の提供」。あとは「活動の補助金等の資金面での支援」「人材の紹介」等ありました。「その他に何かございますか?」という質問に対しては回答は特にありませんでしたけれど、逆に「全く関心がない」方も数パーセントいらっしゃいました。一応、このような形でアンケートの結果が出ました。この結果からみて、やはりまだまだ浸透していない現状を私は感じました。

今から少しずつ、テレビを始めとする様々なメディアでも取り上げられているのを見ながら、あまり難しく考えず、自分の出来る範囲から始めていけばいいのではないかなと。とにかく無駄をなくそうということを進めていけば、ある程度のそれが自然とSDGsの活動につながっていったのではないかなと思います。

第3教区でも今後、来年の年明けになると思いますが、人権学習会等をやる予定がありますので、その時にまた同じようなこのアンケート調査結果等を皆さんにご紹介して、SDGsの活動に対する理解を進めていただきたいと思います。と思っています。

そのためにも宗務所さんはじめ、皆様方からも

いろいろな資料等を提供いただきながら、勉強していった活動につなげていけたらと思っております。

第3教区からは以上です。ありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。引き続き第4教区さん、よろしくお願いします。

第4教区：菊池裕紀師（興禅院）

第4教区布教教化委員興禅院菊池裕紀です。どうぞよろしくお願いいたします。

第4教区ではこのコロナ過の影響により、教区寺院が集まっての研修会等は昨年から開催できない状態です。そういうこともあって、教区全体でこのSDGsについての話し合いはできていない状態ではありますが、2年前の「布教教化大会（テーマ：SDGs）」が北上市での開催で、第4教区の地元で開催されたということもあり、若手宗侶を中心に参加もいたしましたので、SDGsの周知については、それなりに進んでいるのではないかと考えています。しかしながら、今回の報告につきましては私個人の見解で行い、報告させていただきます。

まずは、寺院で行っていることですが、先程の部会長さんの話にもありました「どなたでもお参りしやすいようなお寺」についてです。私が住職を務める寺院の所在地域は、高齢者が非常に多い地域です。高齢者の方でもお参りしやすいように、ということに関しては、以前は手すり等も一切なかったのですが、昨年と今年にかけて参道の階段から、玄関さらには正面法堂への正面の入口、庫裏から法堂への通路すべてに手すりをつけて対応を心がけました。ただし、車椅子への対応等につきましては、立地の条件の都合上、スロープの設

置がなかなか難しく、現在は正面から抱えて中に車椅子ごとに入れるようにしてはいましたが、建物の中は、特にタイヤ等も拭かずにそのまま入れるように対応し、今に至っております。

また、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA)さんの活動、東南アジアの保育園へと絵本の方を贈るという活動へ参加をさせていただき、翻訳したシールを日本の絵本に貼って、それを一番最後のページにはその翻訳の貼った愛用者たちの現地の言葉で書くので、非常に間違うとやり直しになってしまっていて大変なものでしたけども、そちらを行い、お送りいたしました。

寺院として今出来るのはこれぐらいかなと思いましたが、このコロナ過ということもあって大きな活動というのはなかなかできないものですから、まずは家に居ながらこの地域の中で出来ることということで取り組みはしております。

そして、もう1つ、私は地元の創作太鼓のスポーツ少年団の指導をしており、その指導の中で、地元または、この東和町内の子供と触れ合う機会が、週に1回ですがあります。この時に、子供たちの人権そのようなところを考えて、この指導中に、指導の時は普通に指導していますが、休憩時間その時間には、勿論このコロナ過でありますので、マスク着用をしながらの指導で、ソーシャルディスタンスをとりながらですが、なるべく子供たちに話しかけを心掛けています。普通の世間話や学校での話など、様々話しかけるようにして、子供たちに何か変化がないか、いつもよりおかしいところがないか、ということになるべく目を向けるようにしています。

また、そのスポ少の活動中で、今は卒業いたしました。以前には聴覚障がいを持っている方、または、発達障がいとそのようなハンデのある方、そのような方もいらっしゃる、その中で一緒に活動していくということもあります。その時には私

は一切いつもとおり皆さんと同じように接していますが、子供たち同士もそのような差別等生まれないように気をつけながら、基本的にはもう本当にいつもどおり特別扱いすることなく、いつもとおり皆さんと同じく行動してもらっています。ただ、やはりどうしても本人が気にしたりすることもありますので、なるべく皆さんに声をかけて自然とみんなが話をしたり、そのようなことができるような状態にというふうな思いもあって、なるべくその休憩時間にはいろんな子に話をするというふうな形でやっています。

それらはスポ小に関しての活動であります、その他としては、リサイクルということが思い浮かびます。様々な企業がリサイクルボックス等を設置しています。そこに持ち込むような活動。または、家の中でもなるべく再利用できるものは再利用するようなことを心掛けています。

最初の部会長さんの話にもあったとおりに、確かにSDGsというのは世界的に、国連が示したものでありますが、日本の中にもたくさんあると待っていますので、まずはこのお寺というのは地域のお寺でありますので、地域の中から、日本中、さらにはこの花巻市東和、地域で活動をしているという思いでやっております。

以上が、今、私がやっている活動でございます。大変短い報告ではございますが、以上です。ありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。では第5教区さん、よろしくお願ひします。

第5教区：躑躅森大康師（自徳寺）

第5教区自徳寺躑躅森と申します。よろしくお願ひいたします。

SDGsにつきまして、教区寺院に尋ねたところ、

「この頃は、ポスターまたはテレビのCM、特番などで取り上げられているので、最近では耳に馴染みのあるものになってきた」との声が多数ありました。また「小学校の授業で習った」とSDGsのロゴを見て息子が言うておりました。檀家さんの口から今までSDGsという言葉自体聞くことがあまりありませんでしたが、この頃は、お寺の青年部のお檀家の皆さんが「SDGS って何なの？」という風に気さくに質問をしていただけるということもSDGsが周知されてきているな、という実感を持ってるところであります。どんなに素晴らしい取り組みまたはその教えだったとしても、認知されないことにはなかなか実績を上げられないのかなと思いますので、非常にいい傾向だと思っています。

実践報告といたしましては、今回この教化大会までに、できれば教区の皆さんの声を直接聴きながら話し合いを持ちたいと思っておりましたが、このコロナ禍に於いて集まることが叶いませんでした。そこで、SDGsの説明の文章と、活動の例題にアンケート用紙を添えて各寺院に送付いたしました。返信を頂いた中から、当教区のご寺院様に取り組んでおられるSDGsの活動を紹介させていただきます。

- お寺には本堂や参道、階段等、段差が大変多くある。そこにスロープを設置、または手すりをつけるなど、歩行が困難な方でも参拝出来るように心がけている。
- 車椅子で参詣された方が本堂に入るとき、外用の車椅子から室内用に変えられるように、室内用の車椅子または、杖を準備している。
- キャスター付きの焼香台を準備し、仏前に進前しなくとも焼香できるようにしている。
- 雑草の処理に除草剤を使わないようにしている。
- 食べきれない供養膳や供物を、近所やまたはお寺の集まり、ご詠歌さんが来た時、婦人会の皆

さんが来た時に配り捨てない心がけをしている。
○法話の際に食べ物の話をするようにしている。

このほかにもまだ費用面などそういったところで実現はできなくとも将来的には実践したいという声も聞かれました。

SDGs という活動はこれが出来たから終了というものではなく、やはり一人一人の心がけが大切になってくるのだと思います。これも「SDGs の実践になるのかな？」と、ひとつひとつ私自身が顧みることも我々のできる取り組みの入り口だと思います。お檀家さんまたは、お寺を必要として参詣される皆さんと指導をするという立場ではなく、共に歩む姿勢を忘れずに僧侶として取り組んでいきたいと思います。また、SDGs の取り組み自体は 2030 年までの目標として掲げられておりますが、僧侶として使命続く限りは取り組んでいく必要があると強く感じました。

部会長さんからもありました通り、宗門で行なっている取り組み、菩薩行の実践の中には SDGs と関わる部分もあるということを知覚をし、気づかせていただいたということをお大切取り組んで参りたいと思います。

なかなかコロナ禍において集まることもできず、お声を直接聞くこともできませんでしたので、このような報告になりますが、第5教区では以上であります。ありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。次は第6教区です。都合によりビデオでの発表とのことですので、よろしくお願ひしたいと思います。

第6教区：横合大宣師（西岩寺）

第6教区・布教教化員、西岩寺副住職・横合大宣です。本来であれば、私も Zoom にて参加して発表する場でしたが、しかしながら、事情がございまして、その時間に参加することができそうにない状態がございましたので、録画にての発表となりましたことお詫び申し上げます。

先日、教化主事老師より発表についての内容をお聞きいたしました。その上で、私なりに4つに分けてお話をさせていただこうと思っています。

初めに、自坊・師寮寺で実践していること。今回は SDGs に関わる内容での発表ということでしたのでそれに沿うような形で発表させていただきます。

まず、師寮寺でのこととなります。当寺院では、葬儀や年会法要等で使用した蠟燭や線香などを捨てずに朝課で使い切るなどの基本的なことはすでに行っております。これは無駄にしない。という意味での実践です。

また、昨今なかなか足が不自由な方が多くなって参りましたので、杖を常備するようになりました。足の不自由な方の中には、車椅子の方もいらっしゃいます。その場合は、本堂内に入るのを介助することもございます。

以前、本堂内では正座で法要に列席していただいておりますけれども、今現在は皆様が椅子で法要に参加できるように数を揃えております。私や導師を務められる住職様は正座で法要を勤めておりますけれども、遺族・一般参列者に関しましては、椅子にて参加していただいている状況でございます。

次に、今後の実践予定についてです。今現在導入予定であるというのは、正面からお入りいただくには、足腰が大変な方が多くなって参りましたので手すりを設置した方がいいのではないかと考えています。また、スロープにつきましても同様に設置の必要性を感じております。それと同時

に、車いすを常備するというのも想定しておくべきであることは、当寺院でも重々感じております。

また、今のところいらしていただいたことはないのですが、こちらから「どなたでも」という形で開かれた寺院として発信をするに当たりまして、点字で書かれた経典なども準備する必要性が出てきているかなと思っております。いずれは、当寺院でも導入させるべきかと考えます。

次に、教区や近隣のご寺院様における実践でございます。私の記憶している限りでは、私が先ほど述べた当寺院でやっているような車いすや杖をついた方がお参りしやすい、段差をなくすなどの工夫は同様に行われております。

例えば、他宗のお寺さんでは、住宅地として門前を借地していた土地を返していただきまして、本堂に近いところへ駐車場を作るようにし、お参りしやすいようにという工夫をされている寺院さんもいらっしゃいます。なるべく、本堂に近いところに駐車場があれば、山の斜面を切り崩して作ったお寺等でもお参りしやすくなるかなと思いますので、あのような工夫は非常によろしいかなと私も常々思っております。

最後に検討案件や提言について述べさせていただきます。これから述べるのは、県内寺院ではございません。以前私が聞いた話ですが、皆様のお寺でも供物としてお菓子、それから果物とたくさん上がっているかと思えます。そういった供物がたくさん余ってしまう自分たちだけでは処理しきれないということで、近隣のご寺院様と提携し、それぞれのお寺の供物を持ち合ひまして、それを近隣の子供たちに配るといった活動をしているお寺さんもあるというのを聞いたことがあります。そのご寺院様のお話によりますと、やはり供物であるものは非常に美味しいお菓子でございますけれども、子供に向いてないお菓子も多々ございま

す。そこで今現在は、ポテトチップスのようなあいった駄菓子も入れて欲しいという子どもからの要望もあったようで、そういったものを混ぜながら、今でも活動されているということでございました。これに関しましては供物に限らず、どのような形でできるかは今現在まだ考え付きませんが、例えば、仏膳などのお膳関係、なかなか処理しきれないという場合、そちらをそういった形で何等かの形で持っていければいいなとは思いますが、しかしながら、今のところちょっと具体的にこうした方がいいのではないかと提言はございません。どうかできればなという程度でございます。

それからこれに関連し、既に取り組んでおられるお寺さんもある寺子屋活動等で実践していらっしゃるかもしれませんが、児童を預ける場所で困っている方が多い場合。その場合に学童保育の場のように活用できるようにできればお寺を大いに活用できるのではないかと思います。しかしながら、世の中にはいろいろなケースがございますので、場所によってはそういうのを望まれない方が多い場合も考えられます。ですので、一概にどこでもやれるというわけではございませんが、もし仮に預ける場所が近くにないなど、なかなか大変だという場合は、「お寺に預けてもいいんだよ。」というような形で気軽な形で発信出来たのなら、その方たちのためにはなるかなと思っております。

結びとなります。以前、佐々木総長の時代ですが、ふと思い出したのですけれども、過疎化が進んだ地域のお寺さんで福祉施設を運営してはどうかという意見を本庁から出されていたのを記憶しております。その当時の私は、失礼ながら、「そんなのうまくいくわけがない。」などといった意見を持ったものでした。しかしながら、SDGsの17項目をじっくり見ると、あながちそれも悪くないのかなと思うようになりました。お寺さんでそうい

った老人を預けるような福祉施設を運営すれば預けやすいという方も中にはいらっしゃるかなと
思うことがあります。今後、岩手県もだんだん人が減
ってきております。若者も減っております。その
当時は、東北6県の中でも限られたところに対
しての意見ではあるようでしたが、岩手県でも今
後そういった形での社会の歯車と申しますか。社
会に対する貢献の方法というのを模索してもいい
のかなというふうには思い始めてはおります。実
際、運営するかどうかはまた別の話になりますけ
れども、そういった観点から見れば寺院が老人福
祉施設を運営するということに関しましてはそれ
ほど悪いことでもないのかなというふうに私は考
えております。

私からの発表は以上で全てとなります。私の意
見も少しは参考もしくは反映されるようになれば
幸いではございます。拙い発表ではございました
が、ご清聴ありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。ただ今、第6教区よ
りビデオによる発表でございました。では次7教
区様へお願いしたいと思っております。よろしくお願
いします。

第7教区：宇都野智禅師（長慶寺）

第7教区、長慶寺、宇津野智禅と申します。よろ
しくお願ひします。

第7教区でも、このコロナ過ということで、教
区内全寺院にお聞きすることは出来ませんでした
が、何人かの方にお聞きしたことを発表したいと
思います。

寺院としてSDGsに取り組んでいることは特に
ないという方が多かったです。しかし、これから
取り組んでいかなければならない、といった意見
も聞かれました。

SDGsの目標として17項目有りますが、その一

部にあたります。まず一つ目です。今年、宗務庁か
ら送られてきました「みんなお寺に来てほしい」
というポスターがありましたが、こちらの方では
「みんなに来て欲しい」という思いはありますが、
それを貼るということはまだできない。なぜかと
申しますと、先ほどから同様の話題もありました
が、境内を含め庫裏や本堂には段差が多く、バリ
アフリーになっていないところが殆どということ
です。階段や段差が多すぎるため、障がい者の方
々や高齢者の方々が、車椅子を使ってのお参りが
難しい現状があります。

私が住職を務める長慶寺でも、つい先月のこと
ですが、こんなことがありました。法要への参列
のために来られた、杖をついた高齢の女性が、危
なげな感じで庫裏を歩いている姿に気づき、見守
っておりましたが、本堂に向かう廊下に階段があ
り、更にその先の突き当たりに本堂に入るための
2段の階段があるのですが、それを目にした瞬間
にその方は「また階段…」と、腹立たしかったの
でしょう、機嫌悪そうに、ぼそっと声にしたのが、こ
ちらまで聞こえてしまいました。私はショックを
受けましたが、以前から懸念は抱いていたので
すが、バリアフリーの大切さを改めて感じた瞬間
でした。

障がいのある方、足の不自由な方は、いろいろ
あって、その方々ではないと当人しかわからない
気づかないことがまだまだあると思っております。それ
を解決するためには、先程の話に関しては、改修
工事がいいのかもしれませんが、しかし、どうして
も、檀信徒の方々のご寄付に頼るしかないとい
うご寺院も多いという話です。最近、目にした某社
のカタログに、段差の解消＝車椅子でも通れる簡
易スロープのようなものがありました。一つの手
段なのかなと思っております。

次の話ですがSDGsの5番目に掲げられる「ジ
ェンダー平等」、6番目に掲げられる「安全な水と
トイレについて」を、寺院としては考えなければ
ならないと思っております。それはLGBT、特にト
ランスジェンダーの方々への問題です。

それは、戒名のつけ方と、もう一つはトイレの設置についてです。

戒名については、信士・居士、信女・大姉等がありますが、それをトランスジェンダーの方々にはどのようにつけたらいいのか、そういう問題が話題にのぼりました。即座な解決は難しく、これは各住職個人が決める問題ではないと考えますので、宗務庁からなんらかの見解や指針の通達があればと期待しているところです。

次にトイレについてです。各ご寺院では、男性用と女性用とに分かれている場合が多いと思います。テレビ等のメディアで見聞きしましたが、トランスジェンダーの方々にとってトイレの使用にあたって、トイレの選択はなかなか勇気がいるのだそうです。男女の別なく、どなたでも使用できるという標記や、設置の工夫は、各寺院でも直ぐにできる対策なのかもしれません。

これからの時代、昔のやり方を踏襲するばかりではなく、時代に即して、特に、差別のない社会を目指すことを指針として行動すべきと考えます。まだまだ寺院としてやらなければならないことはたくさんあると思います。

今回の布教教化大会では皆さんからの実践発表をうかがい、参考とさせていただきます、様々なかたちで取り入れていきたいと思っております。ありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。では第8教区さん、よろしくお願いいたします。

第8教区：高橋厚順師（照覚院）

第8教区照覚院、高橋です。

国連サミットが定めた2030年までに世界の人が達成しなければならない17の目標、それがSDGsであることは存じております。その17の目標を具体的に挙げようとすると言葉がうまく出て

きませんが、よろしくお願いします。

まず目標1「貧困をなくそう」、目標2「飢餓を0に」です。

先日、テレビの報道番組で、中学1年生の長男と小学5年の長女をお持ちの30代半ばのシングルマザーへのインタビューで、「電子部品の組み立て工場のパートをしながら2人の子どもを育てています。国からの手当と残業しても家賃と食費でぎりぎりの生活です。帰りが遅くなる時には子ども2人でカップラーメンを食べて私の帰りを待っています。思いっきり好きな栄養のあるものを食べさせてあげたいのですが…」と答えていました。1日1.9ドルという国際貧困ライン未満で生活する人は、2015年現在、世界で7億3600万人に上ります。うち4億1300万人がアフリカに集中しています。また、アフリカではコロナワクチン接種率も、今日現在10パーセントに届かないとのこと。アフリカの飢えや、痩せ細った子どもと、日本の子どもたちを単純に比較することはできませんが、前途のような母子家庭のみならず大人が働きに出て子供たちだけが家に残され栄養バランスを考慮した食事を摂取できない環境に置かれる子供たちは年々日本でも増加しています。

そういう事態を救う手段として最近子ども食堂が注目しています。

第8教区内でも主催しているお寺があるのですが、コロナ過ということではなかなか継続的にはとれないようです。過疎地域の多い教区なので都市部のような食堂という空間を持つのは難しいかもしれません。栄養面を重視した手作り弁当いわば子ども弁当を民生委員や栄養士の方々と協力して、また他の教室の取り組みを参考にしながら提出できるシステムを考えていきたいものです。

もちろん、農家の檀家さんが多い地域なので、素材には地産地消を並べて供物等を活用しながら、お檀家さまの協力も必要なところです。

クリーンエネルギー再生可能エネルギーについては、境内内や庫裏に太陽光パネルを設置してい

る寺院も教区内にたくさんいます。

SDGs 目標5「ジェンダー平等を実現しよう」です。社会の中で何かを決めるときに女性も同じように参加したりリーダーになったりできるようにする。男女の平等を進めツベなど女性や女の子が、あらゆるレベルで能力を高められるように適切な政策や効果のある法律を作り強化するとあります。少子高齢化や過疎化によって寺院の後継者不足も深刻です。これからは希望する女性の僧侶が活躍できるようにしていかなければならないところで

また当寺においては ADHD の方々数人に雪かきや境内の掃除等を時給制で手伝ってもらっています。

他宗においては SDGs を色彩と素材で表した輪袈裟をデザインして注目を集めています。目立つ色なのでこれをきっかけに SDGs を知ってもらえるきっかけづくりになるのではと期待を寄せているところで報道で聞きました。

最後になりますが、先日知り合いの尼僧さんが永平寺様で小林監院老師様とお話する機会に恵まれ、「永平寺は今まで以上に多様性を受け入れていくつもりです。性別ハンディキャップ国籍などにこだわらずあるがままに受容することがおのずと優しくなれるはずです。もちろん、己には厳しくしなければなりません」とお話を頂いたそうです。自然と共存して地球の環境を守りやがて争いのない平和な世界を実現するわが宗の教えは、まさに SDGs の目標とシンクロしているのではないのでしょうか。

短いですが、以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。では第9教区さん、よろしく願いいたします。

第9教区：田村大樹師（洞雲寺）

第9教区、大船渡市洞雲寺の田村大樹と申します。

この度は大変僭越ながらお時間頂戴いたしまして持続可能な開発目標、いわゆる SDGs における当寺院の取り組み、並びに同教区ご寺院様のお取り組みの一端、並びに当寺院の今後の目標課題につきましてお話をさせていただきます。

この SDGs は御存知の通り 2015 年の国連 70 周年を迎えるに当たり地球規模での開発目標として採択され、徐々に一般にも知られる所となったわけですが、この数年、様々な媒体にて露出が一気に加速しているように感じております。

この持続可能な開発目標は、同会の宣言を引用いたしますと、強い意志を持って 2030 年までに完全に実施する為にコミットする…幾分回りくどい文言でございますが、そのように書かれております。

2015 年の宣言からすでに 6 年、目標の 2030 年まで残り 9 年となるわけです。ですので、思いのほか速やかに、皆様とこの理念をひとつにし、また、ご理解頂きながら、様々な事を持続維持しながら開発する、とはどういった事か、また、曹洞宗の寺院における持続的な開発とはどのような事で有るか考え、取り組んで参らなければならない、そのように思っております。

国連の 2015 年宣言を拝読いたしますと、この SDGs=17 の大きな目標と、この 17 の大きな目標を実現するための、より具体的な行動指標=169 項目で形成されております。全てにおいて発言いたすことは現実的ではございませんので、大変僭越ではございますが、私なりに選出いたしまして寺院と SDGs の親和性を考察いたしました。

まずもって皆様と共に考え、ご指導頂きながら、寺院と持続的な開発との関わりを探ってまいりたいとお願い申し上げるところでございます。

私ども僧侶が根幹といたすところは、紛れもな

く、お釈迦さまの御教え、道元禅師、瑩山禅師の御教えでございます。正法を根幹といたすことは極めて自然なこと、その大前提を確かなものとし、その上で、この持続可能な開発というものを捉えて参らなければなりません。

私事で恐縮でございますが、同市内の安養寺様よりご法縁頂きまして出家させて頂きました。送行後、洞雲寺方丈様よりご法縁頂きましてお側に置いて頂いております。

この大船渡という街は海が近く水産の街でございます。お檀家様方にも水産業に従事なされている方が多くいらっしゃいますが、近年、その海洋資源に大きな影響が出ておりますこと、皆様もご存知ではないでしょうか。近隣諸国の需要高による影響、海水温の急上昇、それにとまなう海流の激的な変化、穫れる魚の量は激減し、魚種も南方の魚が混じり始め、有毒プランクトンによる貝毒も頻出するようになるなどその影響は計り知れません。

この急速な変化の中、関係者の方々がご苦労なさっていらっしゃるのでは、そのように感じておりまして、あるとき、サンマ漁師の方に「大変ですね」とお声を掛けた事がございました。そうするとその方は「自然相手だもの、なんともなんねえ」「とれる魚捕まえにいくほがねえべ」とおっしゃいます。なるほど、このお考えは非常に馴染んでおるように思ったわけです。

この方のお言葉の奥には、環境が大きく変わり、その渦中、原因を探り、それを明らかになさるのも一手なのでしょうが、「あれがこうだから、これがこうだから」と対外的に物事を捉えておりますうちは、どうにも穏やかにはなれません。

ご自身の内側を静観なさり、あるがままにお捉えになり、出来ることを懸命になさる。無常迅速、万事がうつろうことがいかに早いか。これを心得ておいででなければ、このようにお考え出来ますでしょうか。

ありのままに今を受け入れる。時に非常に難し

い事でございますが、このお釈迦様の御教えをいま正に、SDGsという呼称で、時代が必要としているのではないのでしょうか。

そして、道元禅師がお教え下さいましたように、才能の有る無しに関係なく、皆、お悟りを開く事が出来る。大切なのはお志を高く持つか、そうではないか。どなたでもお悟りになれる、誰一人取り残されない、このことを丁寧にならざるに皆々様にお伝え致すことが、私のお務めであると考えております。

いたずらに流行りに乗らず、名聞利養に近づかず、坐禅を根幹にし、一箇半箇、十二分であると、そのような僧侶の導きが求められているのではないのでしょうか。

また一方で、貧困や格差も差し迫った課題でございます。諸外国とお比べになる方もおられますが、問題は相対的な貧困、格差だと思えます。身近にある貧困問題の一助となりますよう同教区の安養寺様では、市内の児童養護施設様へ、お檀家様よりご寄進頂きました御供物をお持ちいたしております。自坊も同様にさせて頂いております。

そして更に視野を広げてまいりますと、私共には「典座教訓」がございます。修行僧への供養、典座自ら食材を吟味し、その材料は自身の目玉のように大切に守る。頂いた材料には、量の多少、品質の善し悪しに文句をつけてはならない。粗末であっても軽んずることなく、上等であっても浮かれない。愚かな分別はせず、一本の青菜を扱うにも、大伽藍を建立するような気構えと、喜びを発揮させる。食材はもちろん調理道具にも万事、こころ配りをする。高いところに置くべきもの、低いところに置くべきものを分け整理整頓を欠かさない。こころを常に調べ、高い見識によって偏らず、一本の青菜をお釈迦様のお身体のように扱う。これが典座であり、神通力であり、自由自在であり、仏道修行であり、利益であるとお教え下さっております。

我々僧侶一人一人が、食事そのものを修行と致すことは全く当然でございましょうが、衆生、檀家の皆様にも、より一層、こころより食事に励んで頂くために、道元禅師の御教をしっかりとお伝え致すことによって、先に申し上げたように、対外的と捉えがちな問題を、自身の内面と向き合う機会と捉え、実践出来るのではないのでしょうか。

他者や何かと比べる、偏る、このような状態を脱せば、相対的な貧困、誤解を恐れず申し上げれば、心の貧困に真正面から向き合う事が出来ると信じております。

生命や地球環境につきましても同様です。道元禅師がお詠みになられた短歌に「峰の色 溪の響きもみなながら わが釈迦牟尼の 声と姿と」とございませぬ。悉有仏性。どこを捉えても、仏性であり、尊い御教えに満ち満ちております。ごくごく自然に、生かされておりますこの生命がなんとありがたい事とございませぬでしょうか。不義理の仕様がございませぬ。

私のような凡夫は、日々様々な事で一喜一憂し、揺さぶられてしまいます。そんな折、情けない私の様子をご覧になられた、以前のお師匠様でいらっしゃる、安養寺様より、この道元禅師様の短歌をご指導頂きました。改めまして、仏道にお導き頂いたありがたみを、噛み締めた次第でございませぬ。憚りながら申し上げますと、私が頂いたご法縁を、全くもって同様に、お檀家様、地域の皆様と存分に務める事が、SDGs であると考えております。

志を掲げ、他に対して必要以上に無理を掛けない、無理が少なければ自ずと持続し、共感を得て、伝播し、円成すると信じて止みませぬ。

実践目標といたしましては、誠に小さいところからではございませぬが、当寺にて使用致す紙類に再生紙を積極的に取り入れ、並びに地域の印刷事業所と連携を図りながら地球環境に負担の少ない方法での印刷、頒布となるよう取り組んで参りたいと考えております。

大変恐れ多くも皆様のお時間頂きましたことに御礼申し上げますとともに、皆様のご清栄を心よりご祈念いたしまして、私の、SDGs と寺院の親和性についての考察とさせていただきます。誠にありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。それでは第11教区さん、よろしく願いいたします。

第11教区：四戸岸弘道師（宗得寺）

第11教区宗得寺四戸岸と申します。よろしく願いいたします。

第11教区では8月25日に第11教区長、布教部部長、副部長の3名で今回のテーマについて話し合いました。その中でまず4つの意見が出されました。

1つ目に SDGs という言葉を最近見聞きするから何を行いましたということではなくてわれわれ曹洞宗寺院が日々お寺で活動をしている中で SDGs の17の目標がどのように関わっているのか再認識することが大切なのではないか。

2つ目に、SDGs は2016年から2030年までのあと9年ほどの取り組みですが、曹洞宗の寺院ということをお考えするとその期間内だけのことでなくして永続させていける取り組みとしなければならないのではないかと。

3つ目に教区単位での活動など多数の寺院で行う取り組みは、現実的には大変難しいので各お寺または各個人での取り組みになるのではないかと。

4つ目として、SDGs は持続可能な開発目標であり、お釈迦さまや道元禅師の教えではないので、葬儀や供養に関するところは特に慎重に考えなければならないのではないかと。

以上の4点です。

そして各個人の実践報告としましては、全曹青の活動の延長だそうですが、高校生を対象に行っている精進料理の教室、それから東日本大震災または台風の災害の復興支援や寄り添いなどがあげられました。その日の話し合いはそのような形となりました。

またこれは、後日の話になるのですがSDGsに関して大変考えさせられることがありましたので、紹介させていただきます。

先月ある山門法要で、教区内の別の住職とお話しした際に、布教教化大会の今回の話から、SDGsの話題になりました。その時にそのご住職さんがおっしゃるには、その住職のお寺さんではSDGsに関するポスターなどの掲示物は、一切お寺に置かないようにしているし、お檀家さんにSDGsの話はしないのだそうです。不思議に思いましたなぜですかとお尋ねすると答えはこうでした。「曹洞宗寺院の住職は、お釈迦様の教え、道元禅師の教えを元に、お檀家さんと向き合っているのであって、決してSDGsを普及させるために住職をしているのではない」ということでした。なるほどなあと思いました。

このような話をいろいろと聞いているうちに、SDGsの捉え方がいろいろあるなということに気づきましたので、もう少しSDGsについて調べてみました。調べたとみましてもYouTubeなどでSDGsと検索しただけなのですが、肯定側否定側とさまざまな動画が出てまいりました。

否定的な意見としまして例えばなんですが、有名な脳科学者の方だったりとか、あとはいろいろな方を論破しまくる方などがされていたのですが、そもそもSDGs自体の目標が矛盾しているとか、目標を達成するためにはアジアの大きな国などが前提として変わらないとは達成は無理だとか、そういった内容でございました。

一方でSDGsに肯定的な動画では若手の経営者みたいな方が出てらっしゃるのですが、個人で

SDGsできる取り組みとして、いきなりとある商品を紹介することが始まりまして、それを購入することがSDGsにつながる。そういったテレビ通販のような内容でした。

そういった肯定、否定いろいろと見ていくうちに、SDGsは2030年まであと9年で解決される問題では決してないんだろなということがわかりました。

それこそ起業家の方が主ですけども、ビジネスに繋がりがちなところを見ていると、曹洞宗の宗侶をしてどうやら手放しで賛同するというのは大変、危険も含んでいるのではないかなとそういったことを感じました。

曹洞宗のホームページ等を見ますと曹洞宗×SDGsとSDGsを全面的に推進されている印象も受けるのですが、一曹洞宗寺院の住職としましては、SDGsについて賛成・否定の両面を見た上で、SDGsとの適切な距離感をつかむ必要があるのではないかなと思います。

そうした上で今年度の管長告諭の最後の一文に「日々の生活の中で仏様に手を合わせ、世界の人々が安らかに暮らせるよう祈り念じ、皆ともに菩薩行を進めてまいりましょう」とありますように、一日一日一生懸命に菩薩行を行っていくことが大切だと考えます。

以上になります。ありがとうございました。

部会長

ありがとうございました。それでは第12教区さん、よろしく願いいたします。

第12教区：江渡佳真師（長徳寺）

はい。よろしく願います。

第12教区でのSDGsの取り組みを発表させていただきます。

まず、供物や引き物はお寺で使い切れないものは、地域の集まりなどで使っていただいています。

また、毛布やタオルケット等は学校の文化祭のバザーに寄付することもあります。ですが、コロナ過の中なので最近寄付はやっていませんが、落ち着いたらまた寄付する形でやらせていただきたいと思っています。

次に正座ができない方または苦手な方には椅子を用意しております。

次にお檀家さん、学生、外国の方を対象に定期的に座禅会を行っております。

次に花祭り法要に地元の幼稚園保育所の園児を招待しています。これは終わった後、お団子をお配りして地域的になじんでいただきたいという形で行っております。

次に高齢者の為に、手すりを階段トイレ等に取りつけ、また、バリアフリーにしております。また、各御寺院様ですけども、バリアフリー化の検討をされています。

次に町の商工会と役場と協力して、野外での子ども向けの映画上映を行いました。これは各寺院にご存じのとおり、新聞にも載りましたので、軽米の徳楽寺さんですが好評ということで、持続可能ということで、来年もやる予定があるかもしれないということで、提出させていただきました。

次に私の寺なんですけども、簡易水洗トイレのため衛生上を考慮し、ウォシュレットを2年前に設置いたしました。次に古くなった塔婆や仏具等の腐敗を防ぐため、置き場を外に置いていたのですけれども、小屋の中を整理してそちらに置いてもらうことにしました。さらに溜まった塔婆は年に一回お焚き上げとしてさせていただいています。

次に毎年夏にお檀家の方と一緒にお寺の境内等の草刈りを行っております。以上になります。

部会長

はい。皆さん、ありがとうございました。

これからディスカッションということで、今まで様々な意見であったり、実践例を出していただきましたけれども、何か意見あるいは質問のある

方いらっしゃいますでしょうか。

特にないようですので、まとめたいと思います。

内容も多岐には渡っていますので、後日、宗務所さんの方で何かまとめた形で出していただければと思います。

けれども、共通して出てきたのが、やはり、お寺というのは段差が多いということで、その段差を解消しなければ、すべての人に参拝していただけないという。特にこれから高齢化がさらに進んでいきますとなりますと、喪主が車椅子であったりという事例が増えてくると思います。対応するためには、段差の解消等、何らかの形で考えていかなければならないのかなと思います。

また、共通して出てきたのが供物ですね。フードバンクであったり、あるいは地域へ再配布するというような形で、供物を無駄にならないように循環させていくというそういう事例がいくつか紹介されました。

さらに、特徴ある発表としましては、第7教区さんから出されたLGBTトランスジェンダーに対応してトイレであるとか、あるいは戒名の問題で、これは宗門全体でこれからの対応であるとか方針を考えていかなければならないというようなところ です。

あとは、第11教区さんから出た、ただ妄信的に宗門がSDGsと関わっていくのではなくて、適切な距離感が必要であるというご意見が出されましたけれども、これも確かにそのとおりであります。

世界全体がSDGsに向かっていく中で、宗門としては菩薩行の実践のために、逆にSDGsをどういうふうにご利用できるかというそういう逆の視点というのも、あるいは逆の対応の仕方というのも考えていくことができるのではないかという、新しい視点を提供していただけたかなというふうに思います。

また、宗門として、やはり柱にあるのが菩薩行

と同時に坐禅というものもありますので、坐禅を通して心身の調和を目指す中で、どういう風にSDGsの問題関わっていきけるのかというのを考えていくのも、これからの課題であろうかというふうに考えることができようかと思えます。

SDGsは国連主体で、世界全体での取り組みが必要とされる運動ではございますけれども、個人あるいは個別それぞれのお寺が何をできるか、そういう実践の積み重ねが結局の世界にプラスになり、世界の持続を促すものであるという形で捉えていけばいいのかなというふうに思いますので、これからそれぞれの個人あるいは、各寺院さんであるとか、各地域で何らかの実践を無理のない範囲で進めていくことが本日の発表の中で重要なことであるというふうに考えさせられました。

本日は、この大会の中で出されました報告であるとか、意見発表そういうものを集約した上でこれからの皆さんの布教活動—SDGsを知らしめていくということも大事ですけれども—今日の内容をこれからの布教の実践に役立てていただければというふうに思っています、私、部会長からの、まとめの言葉とさせていただきます。

本日は、皆さん、どうもありがとうございました。

教化主事

長時間に亘ってのご参加、ならびにご発表をいただき、ありがとうございました。部会長さんにおかれましては、確りとまとめていただきましたので、さらに言足すことは不要とは思いますが、締めめの挨拶を述べさせていただきます。

今回はZoomを利用して、オンラインでこのようにご参集いただいたの発表大会でありましたが、オンラインとはいえども、皆さんが発表に込められた熱量というものは確りと伝わってくるものだな、と感じ入った次第であります。

私は今、オンラインのホストである宗務所からこうして参加していますけれども、皆さん一人一人のご発表をうかがって、こちら宗務所の所内では、所長老師をはじめ一様に「皆さんすごいなあ」と驚嘆の声が漏れました。感化されるどころ多々ございました。本当にありがとうございました。

先ほど、部会長さんがまとめてくださいましたように、様々な見解や意見、もちろん賛成も反対も含めて、たくさん交わされるのが醍醐味であり本望と思います。ここで触れられた内容は多岐に渡りましたが、大きくは、これまで宗門が掲げて参りました「人権・環境・平和」という三本柱に集約されてくるのではなかろうかとも思いました。

我が宗門が、「人権・環境・平和」を三本柱のスローガンとして掲げるのは、1991年からのことですから、かれこれ30年になります。私の記憶では、その「人権・環境・平和」の三本柱が提示された当時にも、これが一仏両祖の教えに適うのか否かといった議論が宗門内にありました。しかし丁寧な議論に基づき、菩薩行として大乘仏教の行願として取り組んできた経緯があります。また、そこには、宗教法人の公益性という観点が1980年代から大きく取り上げられてきた流れも深く関わっているものと考えます。現在の宗門がSDGsへの取り組みを推進するのも、そうした流れを概観すれば納得できるものでしょう。

本日のような意見交換が、小さくまとまるのではなく、さらに多岐に渡る大きな議論に発展することを、個人的には祈念するところです。

本日は、2時間超に渡りまして、ご参加・ご発表・ご聴講いただきましたことを衷心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

以上で、令和3年度「布教教化大会」を締めさせていただきます。皆様お疲れ様でございました。ありがとうございました。

(文責：曹洞宗岩手県宗務所)